



新規院内製剤の申請手続き

下記4つの必要書類を揃え、薬剤部(内線:6963)までご連絡下さい。

- ①「新規院内製剤申請書」
- ②「新規院内製剤依頼書」
- ③「同意書」
- ④「参考文献」

①～③の書式は医療情報端末上の薬剤部ホームページからダウンロードできます

トピックス

院内製剤について

院内製剤という言葉を知ってどのようなイメージを持たれるでしょうか? 現在厚生労働省から承認された医薬品数は約15,000品目あり、当院の採用医薬品数は約2,000品目です。これらの医療用医薬品は含量や剤形が一定規格のため、すべての患者さんには対応できていません。また患者数の少ない疾患に対する医薬品や、安定性が良くないため製剤化が難しい医薬品は、コスト面から製薬企業ではほとんど製造されていません。この問題を解決するため、薬剤部では患者さんの病状にあわせて剤形を変更したり、患者さんの治療に適した剤形に製剤化しています。このように病院内で調製された製剤を『院内製剤』と呼び、その調製は医療現場と製薬企業の溝を埋めあわせている病院薬剤師の仕事の一つです。



また多くの施設で使われる院内製剤は市販化される場合もあります。最近では経皮的エタノール注入療法に用いられる無水エタノール注射液が市販化されており、メトヘモグロビン血症治療薬である1%メチレンブルー注射液も市販化されようとしています。院内製剤を市販化する利点は他施設で使用可能となる、一貫した製造・供給・管理である、副作用被害の救済・安全対策が整備されることなどが挙げられます。院内製剤業務は薬剤師としての独自性を持ち、医師の診断と治療を支援する非常にやりがいのある業務です。また個々の体質に応じた医療(テーラーメイド医療)と言う視点においても院内製剤は非常に重要な役割を果たすものと考えられます。

主な院内製剤とその適応症

院内製剤名	対象疾患・効能
アロプリノール含そう剤	抗がん剤の投与に伴う口内炎の予防
人工唾液0.2% PANA	口内乾燥症
ブロー氏液	難治性の慢性中耳炎、外耳道湿疹・真菌症
インターフェロンα-2b点眼液	結膜扁平上皮癌
安息香酸ナトリウム錠 アルギニン錠 フェニル酢酸錠	先天性尿素サイクル異常症に伴うアンモニア血症
ヒスチジン銅注射剤	メンケス病(先天性銅吸収障害)
フェノール注射剤	神経ブロック

※ 院内製剤の請求は、原則申請科限定です

Staff Interview

薬剤師 浅野 逸郎



私は製剤室に所属しており、主に院内製剤や外来治療センター・入院の抗がん剤のミキシング業務を担当しています。製剤室と言う部署は、計7名で構成される部署でスタッフがとても明るい所です。外来治療センターの看護師の方々も明るく優しい方々で日頃よりお世話になっております。そんな恵まれた環境で毎日働かせていただいております。これからは患者さんや他の医療スタッフの方々に、自分には何が出来るのかをしっかりと考えながら頑張っていきたいと思っております。

編集委員: 林 えり子、水口 貴史、川岸 亨、笠師 久美子

ご意見、ご感想をお待ちしています kusuri@med.hokudai.ac.jp